

食品安全情報（微生物） No.22 / 2024（2024.10.30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

[【世界保健機関（WHO）】](#)

1. 紛争中のレバノンにおけるコレラ感染の拡大を阻止するための世界保健機関（WHO）の取り組み

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. マクドナルド社のクォーターパウンダーに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2024 年 10 月 25 日付更新情報、22 日付初発情報）
2. 乾燥ドッグフードに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Kiambu) 感染アウトブレイク（2024 年 1 月 10 日付最終更新）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

[【Eurosurveillance】](#)

1. ワークショップ報告：水供給システムにおける食品由来疾患リスクのバイオサーベイランス

[【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】](#)

1. アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022 年（サルモネラ症）
2. アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022 年（ノロウイルス感染症）

[【ProMED-mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（64）（63）（62）（61）（60）（59）（58）（57）（56）

【国際機関】

- 世界保健機関 (WHO: World Health Organization)

<https://www.who.int/en/>

紛争中のレバノンにおけるコレラ感染の拡大を阻止するための世界保健機関 (WHO) の取り組み

WHO in Lebanon working to stop cholera spread amid conflict

17 October 2024

<https://www.who.int/news/item/17-10-2024-who-in-lebanon-working-to-stop-cholera-spread-amid-conflict>

2024年10月16日にレバノン保健省 (MoPH) がコレラ患者1人の発生を確認し、紛争が継続している状況下での健康リスクの上昇が懸念されている。当該患者はレバノン北部のアッカル県で特定され、同国では、2022年10月～2023年6月のアウトブレイクが終息して以降、初めての患者となった。各当局は、コレラ感染の拡大範囲の調査、当該患者との接触者からの検体採取および水の汚染の可能性の調査を行っている。

今回のコレラ患者の再発生は、既に過度な負荷がかかっていたレバノンのヘルスシステムが紛争によって酷使され、避難状況の深刻化および給水・衛生設備やインフラのさらなる機能低下につながったことによるものである。過密状態の避難施設には、増加する避難民を受け入れる態勢が整っておらず、コレラの拡大リスクを上昇させている。

WHOは、MoPHおよびその他の関連機関と緊密に連携し、2022年10月～2023年6月に発生した前回のアウトブレイクから得られた知見を活かして、コレラのアウトブレイクの封じ込めおよび拡大の阻止を図っている。前回のアウトブレイクは、レバノンではそれまでの30年間で初めて発生したコレラアウトブレイクであり、経済状況の悪化、および清潔な水・衛生設備の供給が不十分であったことが原因となった。このアウトブレイクの疑い患者は計8,007人、検査機関での確定患者は計671人、および死亡者は23人であった。

MoPHは2024年8月に、WHO、国際連合難民高等弁務官事務所 (UHNCR)、国際連合児童基金 (UNICEF) およびその他の複数の関連機関と協力し、高リスク地域の居住者35万人を対象に、予防措置としての経口コレラワクチンキャンペーンを開始していた。このキャンペーンは、レバノンの8県のうち5県において高リスク地域の1歳以上の居住者を対象に行われていたが、戦闘の激化によって中断された。

今回のコレラ患者発生を受け、WHOは直ちにコレラの対策・対応計画を始動させ、環境サーベイランス・水検体の採取を含むサーベイランスおよび接触者の追跡調査の強化、検査機関での検査能力の強化、コレラ対応のための支援物資の事前配置、および指定治療施設における感染予防の支援・管理対策を開始した。

この緊急事態への対応を支援するため、WHO が提供する基本的な衛生物資が 2024 年 10 月 4 日および 5 日に首都ベイルートに到着した。116 トンを超えるこの積送品には、対策・対応計画の一環としてのコレラ対応のための支援物資が含まれている。WHO は、検査用物資を含むコレラ対応のための基本的な物資の調達・事前配置を今後も継続的に行っていく。

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. マクドナルド社のクォーターパウンダーに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク (2024 年 10 月 25 日付更新情報、22 日付初発情報)

E. coli Outbreak Linked to McDonald's Quarter Pounders

October 25 & 22, 2024

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/e-coli-O157.html>

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/investigation-update-e-coli-o157-2024.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/where-people-got-sick-e-coli-o157-2024.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、マクドナルド社のクォーターパウンダーに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクに関する情報を発表した。

2024 年 10 月 25 日付更新情報

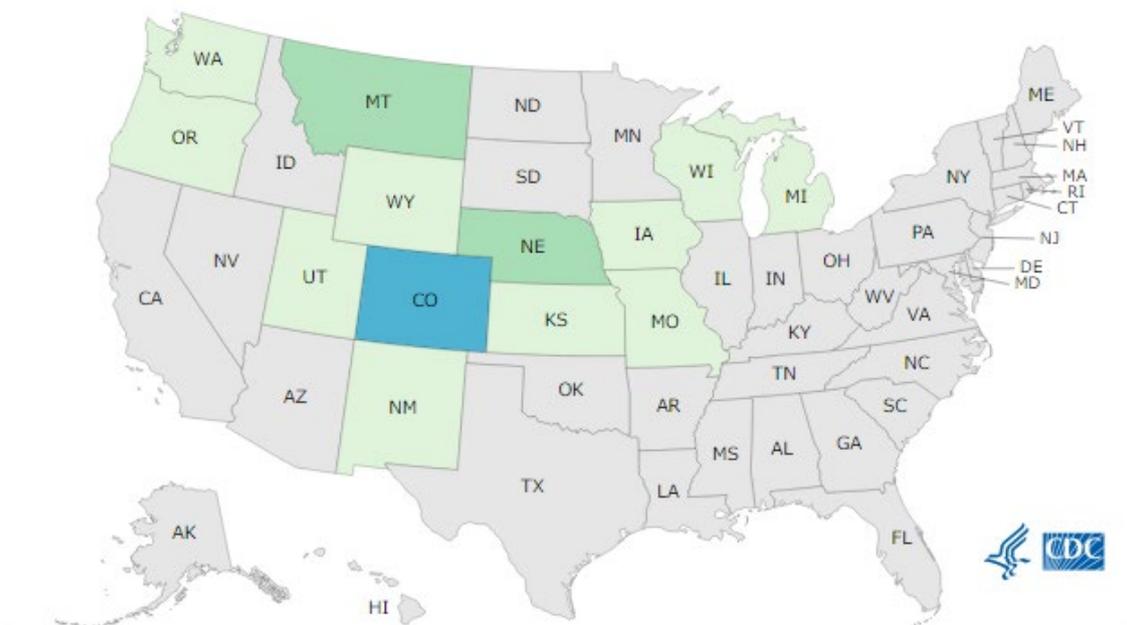
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局、米国食品医薬品局 (US FDA) および米国農務省食品安全検査局 (USDA FSIS) は、複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学データは、マクドナルドの店舗で提供されたハンバーガー「クォーターパウンダー」が大腸菌に汚染されており、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。FDA からの初期の情報では、タマネギが本アウトブレイクの原因食品である可能性があることが示されている。汚染された原材料を特定するため、すべての関連機関の担当者が早急に調査を進めている。

○ 疫学データ

2024年10月24日時点で、大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株感染患者が13州から計75人報告されている（図1）。患者の発症日は2024年9月27日～10月10日である。情報が得られた患者61人のうち22人が入院し、2人が溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した。コロラド州の高齢患者1人の死亡が報告されている。この死亡者は、HUSを発症した2人とは別の患者である。

図1：大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの居住州別患者数（2024年10月24日時点の計75人）



Number of Sick People

● 1 to 5

● 6 to 15

● 16 to 26

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前1週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（nは当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=74)	年齢範囲：13～88 歳 年齢中央値：29 歳
性別 (n=75)	40%：女性 60%：男性
人種 (n=59)	95%：白人 3%：アフリカ系アメリカ人または黒人 2%：複数の人種
民族 (n=55)	91%：非ヒスパニック系 9%：ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 42 人全員（100%）がマクドナルドの店舗での食事を報告し、このうち 39 人が牛肉のハンバーガーの喫食を報告した。喫食した具体的なハンバーガーを覚えていた 36 人のうち 31 人（86%）が「クォーターパウンダー」の喫食を報告した。本アウトブレイクの一部の患者は、発症前に他州に旅行していたことを報告した。少なくとも 3 人の患者は旅行中にマクドナルドの店舗で食事をしていました。

○ 追跡調査によるデータ

クォーターパウンダーに使用された細切りタマネギまたは牛肉パテが本アウトブレイクの具体的な原因食品であるかどうか特定するため調査が進められている。

FDA による予備的追跡調査および流通情報に関する調査の結果は、クォーターパウンダーに材料として含まれていた細切りタマネギが汚染されていた可能性が高いことを示している。FDA は、これらのタマネギが本アウトブレイクの原因食品の 1 つであることを確認するため、また当該タマネギがその他の事業者でも提供・販売されたかどうかを特定するため、速やかに調査を進めている。

マクドナルド社の店舗のうち本件に関連した店舗に細切りタマネギを供給した Taylor Farms 社は、イエローオニオンの回収を開始した。同社はまた、当該タマネギの供給先に直接連絡を取り、当該製品を販売対象から除外するよう要請した。FDA は、関連業者と緊密に連携して本件に対応しており、回収対象タマネギの供給を受けた事業者が必要と思われる追加の回収情報など、更新情報の提供を継続していく。

FSIS は、牛ひき肉が原因食品であるかどうか特定するため、マクドナルドの店舗で提供されたハンバーガーパテに関する追跡調査を行っている。

○ 公衆衛生上の措置

感染源を確認中であることから、マクドナルド社は、顧客を保護するため、一部の州の店舗において、生鮮細切りタマネギおよびクォーターパウンダー用の牛肉パテ（重量が 4 分

の 1 ポンド) の使用を中止している。クォーターパウンダーは、一部の州では販売が一時的に中止される。CDC は、マクドナルドのクォーターパウンダーを喫食して大腸菌感染による重篤な症状が見られる場合は医療機関に連絡するよう呼びかけている。

2024 年 10 月 22 日付初発情報

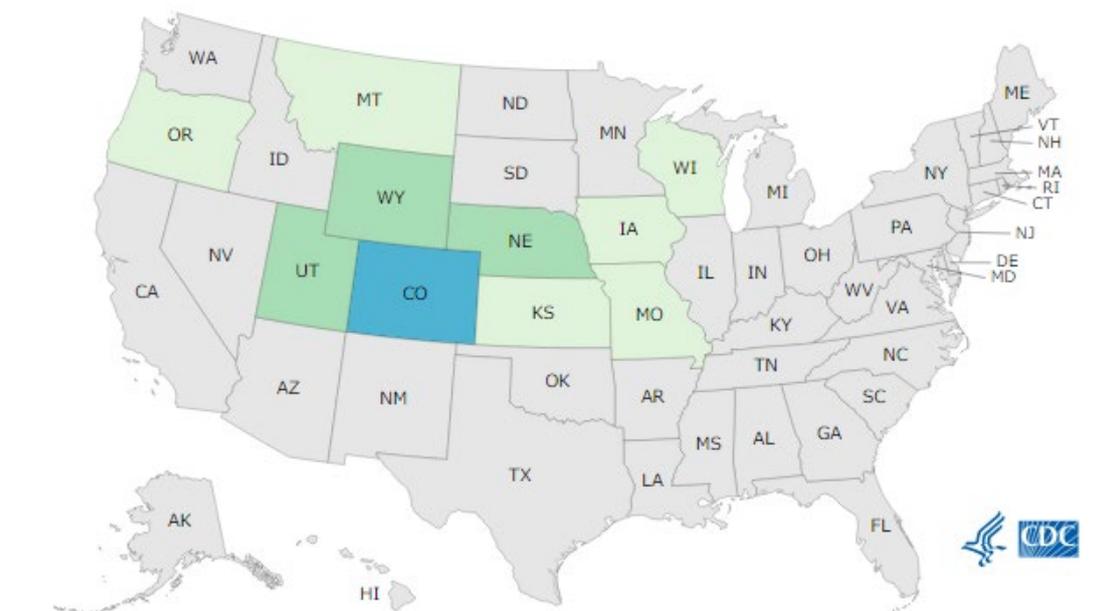
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局、米国食品医薬品局 (US FDA) および米国農務省食品安全検査局 (USDA FSIS) は、複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学データは、マクドナルドの店舗で提供されたハンバーガー「クォーターパウンダー」が大腸菌に汚染されており、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。FDA からの初期の情報では、タマネギが本アウトブレイクの原因食品である可能性があることが示されている。汚染された原材料を特定するため、すべての関連機関の担当者が早急に調査を進めている。

○ 疫学データ

2024 年 10 月 22 日時点で、大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株感染患者が 10 州から計 49 人報告されている (図 2)。患者の発症日は 2024 年 9 月 27 日～10 月 11 日【编者注：更新情報で 10 月 10 日に訂正された】である。情報が得られた患者 28 人のうち 10 人が入院し、1 人が溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症した。コロラド州の高齢患者 1 人の死亡が報告されている。この死亡者は HUS を発症した患者とは別の患者である。

図 2 : 大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2024 年 10 月 22 日時点の計 49 人)



Number of Sick People

- 1 to 3
- 4 to 9
- 10 to 26

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

年齢 (n=49)	年齢範囲 : 13~88 歳 年齢中央値 : 26 歳
性別 (n=49)	37% : 女性 63% : 男性
人種 (n=29)	93% : 白人 7% : アフリカ系アメリカ人または黒人
民族 (n=25)	100% : 非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 18 人全員 (100%) がマクドナルドの店舗で

の食事を報告し、このうち 16 人が牛肉のハンバーガーの喫食を報告した。喫食した具体的なハンバーガーを覚えていた 14 人のうち 12 人（86%）が「クォーターパウンダー」の喫食を報告した。本アウトブレイクの一部の患者は、発症前に他州に旅行していたことを報告した。少なくとも 1 人の患者は旅行中にマクドナルドの店舗で食事をしていた。

○ 追跡調査によるデータ

クォーターパウンダーに使用された細切りタマネギまたは牛肉パテが本アウトブレイクの具体的な原因食品であるかどうか特定するため調査が進められている。

FDA による予備的追跡調査および流通情報に関する調査の結果は、クォーターパウンダーに材料として含まれていた細切りタマネギが汚染されていた可能性が高いことを示している。FDA は、これらのタマネギが本アウトブレイクの原因食品の 1 つであることを確認するため、また当該タマネギがその他の事業者でも提供・販売されたかどうかを特定するため、速やかに調査を進めている。

FSIS は、牛ひき肉が原因食品であるかどうか特定するため、マクドナルドの店舗で提供されたハンバーガーパテに関する追跡調査を行っている。

○ 公衆衛生上の措置

感染源を確認中であることから、マクドナルド社は、顧客を保護するため、一部の州の店舗において、生鮮細切りタマネギおよびクォーターパウンダー用の牛肉パテ（重量が 4 分の 1 ポンド）の使用を中止している。クォーターパウンダーは、一部の州では販売が一時的に中止される。CDC は、マクドナルドのクォーターパウンダーを喫食して大腸菌感染による重篤な症状が見られる場合は医療機関に連絡するよう呼びかけている。

2. 乾燥ドッグフードに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Kiambu) 感染アウトブレイク (2024 年 1 月 10 日付最終更新)

Salmonella Outbreak Linked to Dry Dog Food, November 2023

Posted January 10, 2024

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/dog-food-10-23/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/dog-food-10-23/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/dog-food-10-23/locations.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局動物用医薬品センター (US FDA CVM) は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Kiambu) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集した。

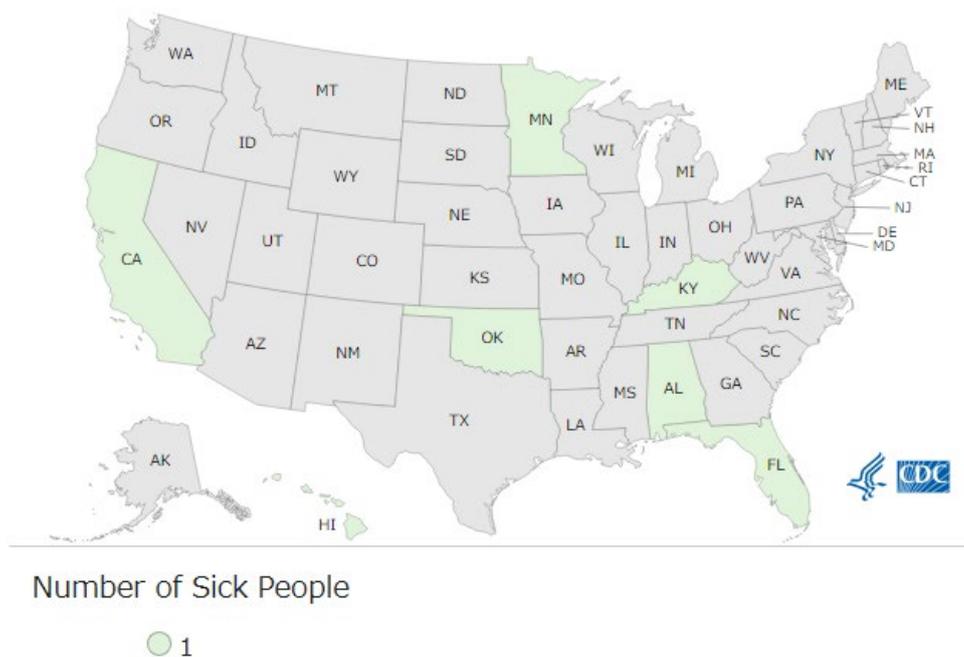
疫学調査および検査機関での検査によるデータは、Victor ブランドの乾燥ドッグフード

「Hi-Pro Plus」の特定ロットの製品がサルモネラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示した。当該製品の製造業者である Mid America Pet Food 社は、自社製の全てのブランドのペットフードを回収した。

○ 疫学データ

2024 年 1 月 10 日までに、*S. Kiambu* アウトブレイク株感染患者が 7 州から計 7 人報告された（図）。患者の発症日は 2023 年 1 月 14 日～8 月 19 日であった。患者 1 人が入院し、死亡者は報告されなかった。

図：サルモネラ（*Salmonella Kiambu*）感染アウトブレイクの居住州別患者数（2024 年 1 月 10 日時点の計 7 人）



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品や接触した動物・ペットフードなど、患者に関する様々な情報を多数収集した。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について得られた人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=7)	86% : 1 歳以下 14% : 65 歳以上
性別 (n=7)	57% : 女性 43% : 男性
人種 (n=5)	60% : 白人 20% : アフリカ系アメリカ人または黒人 20% : 複数の人種
民族 (n=5)	100% : 非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前に接触した可能性があるペットおよびペットフードに関する聞き取り調査を行った。聞き取りが実施された患者 5 人全員 (100%) がイヌとの接触または家庭内でのイヌの飼育を報告し、このうち 3 人 (60%) が Victor ブランドのドッグフードをイヌに給餌していた。この 3 人のうち、1 人は「Hi-Pro Plus」の給餌を報告し、2 人は給餌した Victor ブランドのドッグフードの具体的な種類を覚えていなかった。

○ 検査機関での検査データ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用した。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS (全ゲノムシーケンシング) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ製品により感染したことを示唆している。

サウスカロライナ州農務局 (SCDA) による通常検査のため、Victor ブランドのドッグフード「Hi-Pro Plus」のうちロット番号が 1000016385 の製品の検体が小売店から採取され、同州保健環境管理局 (SCDHEC) がこれを分析した結果、サルモネラが検出された。WGS 解析により、このドッグフード検体由来のサルモネラ株が患者由来株と近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が、当該ドッグフード、当該ドッグフードに使用した容器などの物、当該ドッグフードを給餌されたイヌの糞便・唾液などと接触した後に、サルモネラ菌を飲み込んだことで感染した可能性が高いことを意味している。患者の自宅には Victor ブランドの製品は残っておらず、サルモネラ検査のための製品検体は入手できなかった。

患者由来 7 検体およびペットフード由来 1 検体から分離されたサルモネラ株について WGS 解析が実施された結果、抗生物質耐性の存在は予測されなかった。抗生物質耐性に

関する詳細情報は、CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム(NARMS)の以下のWebページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

○ 公衆衛生上の措置

2023年9月4日、Victorブランドのドッグフード「Hi-Pro Plus」のうち1ロットの回収通知がFDAより発出された(以下Webページ参照)。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/mid-america-pet-food-issues-voluntary-recall-due-possible-salmonella-health-risk>

2023年10月30日、Victorブランドのドッグフード「Super Premium Dog Food、Select Beef Meal & Brown Rice Formula」のうち3ロットの回収が開始された(以下Webページ参照)。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/mid-america-pet-food-issues-voluntary-recall-victor-beef-meal-rice-dog-food-due-possible-salmonella>

2023年11月9日、Mid America Pet Food社は、自社製の全てのブランドのペットフードの回収を開始した(以下Webページ参照)。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/mid-america-pet-food-expands-voluntary-recall-include-additional-dog-and-cat-food-products-due>

CDCは、回収対象の全てのペットフードを廃棄するよう消費者に注意喚起しており、事業者に対しては、当該製品の販売・使用・寄付を行わないよう呼びかけている。

(食品安全情報(微生物) No.24 / 2023 (2023.11.22) US CDC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局(EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム(RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2024年10月8～21日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

フランス産加熱済みハムのリステリア (*L. monocytogenes*) の疑い、イタリア産の生ハムのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産冷凍鶏もも肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、*S. Infantis*)、フランス産トラウト切り身のサルモネラ、原産国不明の魚すり身のリステリア、ポーランド産鶏ももカット肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ベルギー産グアカモーレのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産冷凍チキンケバブのサルモネラ属菌、ドイツ産イヌ用餌のサルモネラ属菌、ドイツ産乳児用飲料水のカビ、ノルウェー産イワナのリステリア、フランス産サーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産家禽首皮のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、エジプト産有機タマネギ粉末のサルモネラ属菌、ポーランド産ポークソーセージのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産鶏首皮のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、フランス産バランセチーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産鶏肉とチキンケバブのサルモネラ属菌、ラトビア産スモークソーセージのリステリア (*L. monocytogenes*) など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

ルーマニア産家禽の卵のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、イタリア産鶏肉製品 (gyro) のサルモネラ属菌、セルビア産挽いたシナモンのセレウス菌、アイルランド産子羊肉の志賀毒素産生性大腸菌、ドイツ産 (アルゼンチン産原材料使用) 冷凍牛肉カルパッチョの志賀毒素産生性大腸菌の疑い、ポーランド産の生鮮鶏ドラムスティック肉 (骨なし) のサルモネラ (*S. Infantis*)、チェコ産調理済みパスタのセレウス菌、ポーランド産七面鳥むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、インド産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Cannstatt*)、ポーランド産鶏肉のサルモネラ (*S. Infantis*) とカンピロバクター (*C. coli*)、イタリア産有機ホウレンソウのサルモネラ (*S. Umbilo*)、フランス産チーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産冷蔵家禽由来成分 (poultry element) のサルモネラ属菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

オランダ産の生ペットフードのサルモネラ、ポーランド産の生鮮鶏卵のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、リトアニア産有機ヒマワリ種子搾油粕のサルモネラ属菌、ポーランド産 (エストニア経由) 冷凍豚頬肉のサルモネラ (*S. Ohio*、*S. Typhimurium*、*S. Derby*)、ポーラ

ンド産冷蔵七面鳥脚肉のサルモネラ属菌など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

タンザニア産ゴマ種子のサルモネラ属菌、チャド産（トルコ経由）ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

違反通知 (non-compliance notification)

ラトビア産カット冷燻サバのリステリアなど。

● Eurosurveillance

<https://www.eurosurveillance.org>

ワークショップ報告：水供給システムにおける食品由来疾患リスクのバイオサーベイランス

Meeting report: Food-borne disease risk: biosurveillance in water networks

Eurosurveillance Volume 29, Issue 37, 12/Sep/2024

<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC11395284/pdf/eurosurv-29-37-3.pdf>（報告書 PDF）

<https://www.eurosurveillance.org/content/10.2807/1560-7917.ES.2024.29.37.2400556>

英国では、2018年に食品由来疾患（FBD）により240万人が健康被害を受け、16,000人以上が入院したと推定されており、その後の見積において、主要な11種類の病原体への曝露による英国内の年間死亡者数は約180人であることが示されている。これらの疾患による年間の被害額は105億ユーロ（90億英ポンド）と見積もられ、医療提供者、産業界および一般消費者への影響が広範囲に及んでいる。

ヒトが喫食する食品は、製造・出荷・保管・調理などのどの段階でも汚染が生じる可能性があり、また環境・ヒト・動物などからの汚染も関連する可能性があるため、食品由来疾患アウトブレイクの原因病原体の汚染源や汚染経路の特定プロセスが複雑化している。さらに、現時点で英国には、食品由来疾患のモニタリングやサーベイランスのための完全に統合された枠組みが存在しないため、アウトブレイクの予測が困難になり、対策の遅れにつながっている。

2022年に「HM Treasury Shared Outcomes Fund（英国財務省シェアードアウトカム基金）」の下にいくつかのプログラムが立ち上げられ、このうち「PATH-SAFE：Pathogen

Surveillance in Agriculture, Food and Environment (農業・食品・環境における病原体サーベイランス)」の目的は、食品由来疾患および抗菌剤耐性 (AMR) のための精度の高い全国サーベイランスプログラムを試験的に運用することであった。

この PATH-SAFE において、食品由来疾患アウトブレイクに関連している上位 5 種類の懸念すべき病原体から英国食品基準庁 (UK FSA) が特定したノロウイルス、リステリア (*Listeria monocytogenes*) およびサルモネラ属菌に焦点が当てられ、また、糞便汚染の指標菌として大腸菌が使用され、予備調査が実施された。

この予備調査の結果の発表、および高精度な全国バイオサーベイランスプログラムを実施するための課題・要件・機会に関する議論を行うため、Cefas (環境・食品・水産養殖科学センター) およびバンガー大学が、2024 年 1 月 31 日に英国王立研究所 (ロンドン) でワークショップを開催した。このワークショップには、食品由来疾患および抗菌剤耐性に関与する病原体に関心を持つ様々な関係者が招聘され、効果的な全国サーベイランスプログラムにおいて期待される成果を得るための最適な方法について、見解や助言の提示を求められた。ワークショップには、行政、研究機関、慈善団体などからの多様な職務の担当者 (研究者、政策決定者、公衆衛生アナリスト、政策アドバイザー) が参加した。

ワークショップの第一部では、上記の予備調査の結果発表が行われるとともに、ポスターセッションおよび情報交換のセッションも設けられた。第二部では、参加者をグループ分けし、「微生物学的リスクに関するサーベイランスおよび対策：欠如と制約、知識と認識、アプローチと機会」について各グループ内で議論が行われた。

このワークショップへの参加者は、以下の様々な機関からの幅広い分野の専門家であった：英国動植物衛生庁 (APHA)、バルセロナ自治大学、バンガー大学、カーディフ大学、Cefas、英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA)、Fera Science 社、UK FSA、ニューカッスル大学、国営医療サービス (NHS) ウェールズ、Ribble Rivers Trust、王立獣医科大学 (RVC)、The Rivers Trust、英国生態学・水文学研究センター (UK CEH)、英国保健安全保障局 (UK HSA)、英国動物用医薬品局 (VMD)。

● アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland)

<https://www.hpsc.ie>

1. アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022 年 (サルモネラ症)
Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022: Salmonellosis in Ireland
January 2024

[https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/salmonellosis/surveillancereports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset%20Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20\(002\).pdf](https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/salmonellosis/surveillancereports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset%20Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20(002).pdf) (各種データの PDF)
Annual Reports on Salmonellosis in Ireland
<https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/salmonellosis/surveillancereports/#d.en.24004>

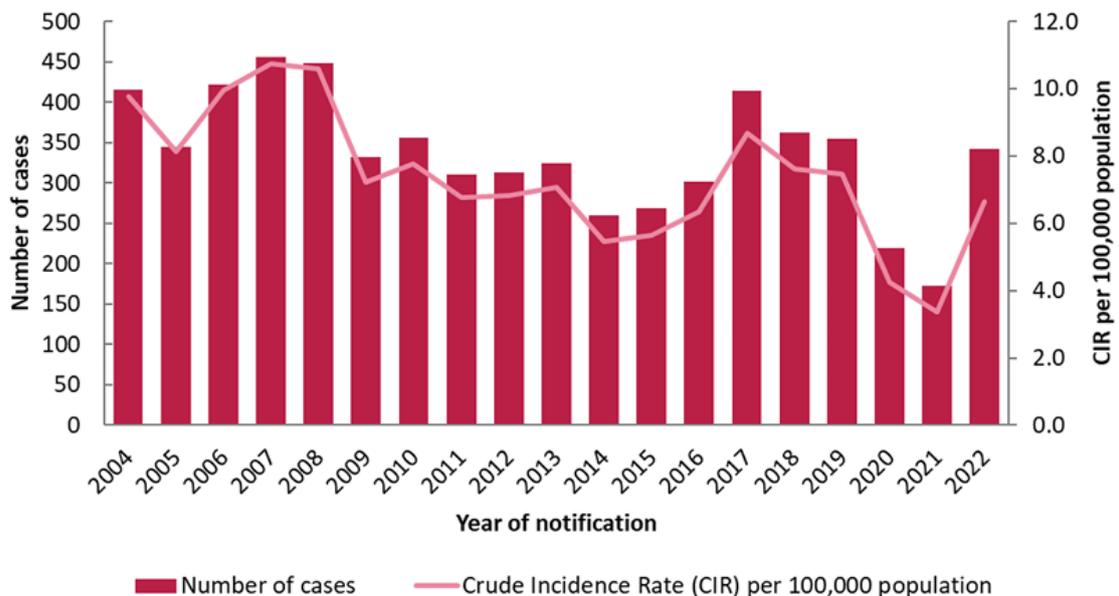
アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland) は、「アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年 (Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022)」を発表した。このうち、サルモネラ症に関する内容を以下に紹介する。

アイルランドのサルモネラ症：2004～2022年の傾向

サルモネラ症の人口 10 万人あたりの粗罹患率 (CIR) は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミック中の 2020 年および 2021 年に低下した (図 1)。2022 年の CIR は 6.6 で、2021 年 (3.4) の約 2 倍に上昇したが、パンデミック前と同レベルであった。

図 1：アイルランドのサルモネラ症：2004～2022年の傾向

Salmonellosis in Ireland: trends, 2004-2022



Data source: Computerised Infectious Diseases Reporting System (CIDR) 12/10/2023

アイルランドのサルモネラ症：2022年のアウトブレイクおよびクラスター

2022年は、サルモネラ症アウトブレイク 17 件が報告され（一般アウトブレイク 5 件、家庭内アウトブレイク 12 件）、2020 年の 11 件および 2021 年の 6 件より増加したものの、2019 年とは変わらなかった。

- 全国的なアウトブレイクとして、一般アウトブレイク 3 件の調査が行われた。
 - ・ チョコレート製品の喫食に関連して、複数国にわたる大規模な単相性 *Salmonella* Typhimurium 感染アウトブレイク 1 件が発生し、アイルランドでは検査機関確定患者 16 人が報告された（食品安全情報（微生物）No.11/2022 (2022.05.25) ECDC /EFSA 記事参照）。
 - ・ アイルランド島の居住者または訪問者で、検査機関確定患者 27 人が報告された。
 - ・ 小規模なアウトブレイク 1 件で患者 5 人が報告され、感染源は特定されなかった。

- 地域アウトブレイクとして、一般アウトブレイク 2 件の調査が行われた。
 - ・ 1 件は患者数 3 人の国外旅行関連事例であり、もう 1 件では国外旅行関連の情報が得られなかった。

- 2022 年に国立サルモネラ・赤痢・リステリアリファレンス検査機関（NSSRL）が実施した全ゲノムシーケンシング（WGS）により、サルモネラ分離株の多くが遺伝学的に相互に関連していないことが確認されたが、全国的なアウトブレイクで報告されたクラスターの他に非チフス性サルモネラの遺伝子クラスターが 25 個特定された。
 - ・ これらのクラスターは概ね小規模で、1 クラスターあたりの患者数の中央値は 2 人（範囲：2～6 人）であった。
 - ・ これらのクラスターの多くは地理的または時間的に非常に幅広く散在していたため、必ずしも綿密な公衆衛生対応を必要とする状況ではなかった。

アイルランドのサルモネラ症：2022年の概要

- ・ 2022 年はサルモネラ症患者 342 人が報告された。
- ・ 人口 10 万人あたりの罹患率は 2021 年の 3.4 から 2022 年は 6.6 に上昇し、COVID-19 パンデミック前と同レベルになった。
- ・ 患者の 21%が 5 歳未満であった。
- ・ 人口 10 万人あたりの CIR は、保健サービスのダブリン・北東地域が最も高かった (7.6)。
- ・ 血清型については、*S. Enteritidis* および *S. Typhimurium* が特に多く、*S. Enteritidis* は国外旅行関連患者において、*S. Typhimurium* は国内感染患者において多かった。
- ・ 2022 年は国外旅行関連患者が減少した。2022 年の国外旅行者数が COVID-19 パンデミック前のレベルに戻らなかったこともあるが、パンデミックによってサーベイランス

データ収集が不十分であったため（2018年／2019年はそれぞれ90％／86％であったのに対して、2020年／2021年／2022年はそれぞれ75％／57％／80％であった）、感染国に関するデータ不足という人為的な影響を受けている可能性もある。

- ・ 2023年に全国的なサルモネラ症アウトブレイク3件が報告され、このうち1件は複数国にわたる大規模なアウトブレイクであった。
- ・ アイルランドの罹患率は、欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）の平均罹患率より低かった。

2. アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年（ノロウイルス感染症）

Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022: Norovirus infection in Ireland

January 2024

<https://www.hpsc.ie/a->

[z/gastroenteric/salmonellosis/surveillancereports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20\(002\).pdf](https://www.hpsc.ie/a-z/gastroenteric/salmonellosis/surveillancereports/Zoonotic%20and%20IID%20Slideset%20Trends%20to%20the%20end%20of%202022_v0.4%20(002).pdf)（各種データのPDF）

アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）は、「アイルランドの胃腸疾患および人獣共通感染症、2022年（Gastroenteric and Zoonotic Diseases in Ireland, 2022）」を発表した。ノロウイルス感染症に関する内容の一部を以下に紹介する。

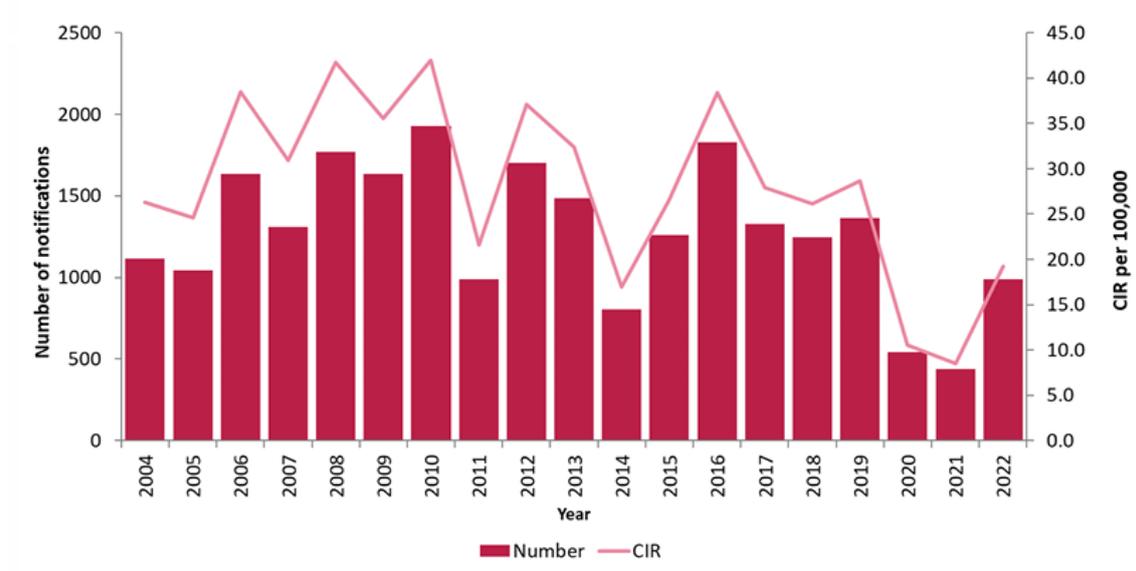
アイルランドのノロウイルス感染症：2004～2022年の傾向

ノロウイルス感染症の人口10万人あたりの粗罹患率（CIR）は、2022年は19.2で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック中の2020年（10.6）および2021年（8.5）より上昇したが、パンデミック前の2004～2019年（2014年を除く）と比べると依然として低い（図1）。

2022年にはノロウイルス感染患者990人が報告され、このうち74%（730人）がいずれかのアウトブレイクに関連していた。

図 1 : アイルランドのノロウイルス感染症 : 2004~2022 年の傾向

Norovirus in Ireland: trends, 2004-2022

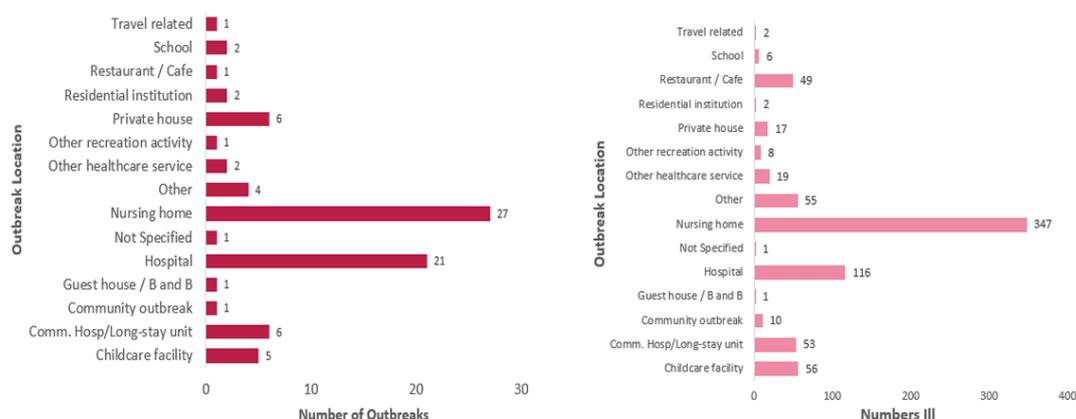


Data source: Computerised Infectious Diseases Reporting System (CIDR) 25/09/2023

アイルランドのノロウイルス感染症 : 2022 年のアウトブレイク

2022 年にノロウイルス感染アウトブレイクが特に多く発生した場所は、保育・介護施設 (33%、27 件、合計患者数 347 人) および病院 (26%、21 件、合計患者数 116 人) であった (図 2)。

図 2 : アイルランドのノロウイルス感染症 : 2022 年のアウトブレイク



Data source: Computerised Infectious Diseases Reporting System (CIDR) 10/11/2023

アイルランドのノロウイルス感染症 : 2022 年の概要

- 2022 年はノロウイルス感染患者 990 人が報告された。
- 人口 10 万人あたりの罹患率は、2021 年の 8.5 から 2022 年は 19.2 に上昇したが、COVID-19 パンデミック前に比べると依然として低い。
- 2022 年に報告された患者のうち、70%を超える患者がいずれかのアウトブレイクに関連していた。
- 2022 年に報告されたノロウイルス感染アウトブレイクは 81 件で、COVID-19 パンデミック前の年間件数と同レベルであった。
- ノロウイルス感染アウトブレイクが特に多く発生した場所は、保育・介護施設および病院であった。
- COVID-19 拡散防止のため、医療施設では受診・面会制限や個人防護具（PPE）の使用促進、保育・介護施設では社会的距離の確保や隔離などを実施し、これらの対策が、パンデミック中（2020～2021 年）のノロウイルス感染の患者数およびアウトブレイク数の減少につながった可能性がある。

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (64) (63) (62) (61) (60) (59) (58) (57) (56)
 Cholera, diarrhea & dysentery update (64) (63) (62) (61) (60) (59) (58) (57) (56)
 23, 22, 20, 17, 14, 10 & 9 October 2024

○ コレラに関する世界保健機関 (WHO) の報告

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
世界全体	10/18	WHO 区分の 5 地域	1/1～9/29	計 439,724	計 3,432
各国の状況					
タイ ¹	10/18			5	0
ニジェール ¹	10/18	5 州 ⁵	9/29 時点	(疑い)累計 705	⁶ 累計 17
コンゴ民主共和国	10/18		9/2～29	1,738	39
			第 36 週	372	
			第 39 週	524	
		16 州 ²	1/1～9/29	計 25,221	計 355
ナイジェリア	10/18	18 州 ³ と連邦首都地区(FCT)	9/2～29	計 1,938	計 87
		35 州 ⁴ と FCT	1/1～9/29	計 10,837	359
スーダン	10/18	3 州など ⁷	9/2～29	計 15,047	計 408
			1/1～9/29	20,062	622

¹ 前回の報告以降に報告された新規アウトブレイク

² 北キブ州、オー＝カタンガ州、南キブ州、オー＝ロマミ州の合計患者数が全体の 90%以上を占める

³ 患者数が特に多い州：アダマワ (535 人)、ジガワ (380 人)、ラゴス (259 人)、カノ (224 人)

⁴ エヌグ州のみが患者数 0 人

⁵ 州別内訳：タウア (374 人)、ザンデール (226 人)、マラディ (97 人)、アガデス (6 人)、ディファ (2 人)

⁶ 州別内訳：タウア (11 人)、ザンデール (2 人)、マラディ (3 人)、アガデス (1 人)

⁷ 患者数が特に多い州：カッサラ、リバーナイル、ガダーレフ

○ コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
ガーナ	10/14	グレーター・アク ラ州 Ada West と Ada East	10/4～	計 9	
ナイジェリ ア	10/17	35 州 ¹ と連邦首 都地区(FCT)		計 14,237	計 378
レバノン	10/16	アッカル県 Sammouniyeh	10/16 に確定(2024 年 の初めての確定患者)	1	
イラク	10/13	11 地域 ²	2024 年 1 月～	計 400 以上	
シリア	10/11	デリゾール	9 月	(疑い)約 200	
トーゴ	10/3	マリティーム州 Golfe	8 月～	複数	4
インド	10/8	ゴア州 Cutbona と Mobor	10/7 時点	累計 228	累計 6
イエメン	10/7	10 地域	1～9 月	計 448	計 3

¹ ボルノ州、アダマワ州、ジガワ州、ヨベ州、カノ州など

² 確定患者が報告された地域：スレイマーニーヤ (119 人)、キルクーク (108 人)、ディヤ
ーラ (107 人)、エルビル (69 人)、バグダッドの Al-Rusafa 側 (22 人)、ナジャフ (6 人)、
バグダッドの Al-Karkh 側 (3 人)、Dhi Qar (1 人)、Nineveh (1 人)、Wasit (1 人)、
Maysan (1 人)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室